避難所や仮設住宅などの厳しい学習環境にあって，床にノートを広げて宿題をする様子や，暗がりの中で自学自習に打ち込む姿からは，学びへの強い意欲と困難を乗り越えようとするたくましさが感じられた。

○　さらに，教職員をはじめとする地域住民，ボランティア，大学・ＮＰＯ・企業などの献身的かつ積極的な行動，警察官，消防士，自衛官などによる職業的使命感に基づく的確な救助・救援活動などは，我が国に「人の絆」が今も強く存在していることを国際社会に強く印象付けた。さらに，国際社会から様々な支援を受けたことは，我々にとって「世界との絆」を感じる経験ともなった。

（震災からの教訓）

○　我々は未曽有の震災体験を通じて，改めて我が国が直面する危機を打破するための手掛かり（教訓）を見いだすことができたと思われる。例えば，

・困難に直面しようとも，諦めることなく，状況を的確に捉えて自ら考え行動する力の重要性
・新たな社会的・経済的価値を生み出すイノベーションの創造など，未来志向の復興・社会づくりを目指していくこと，そのための人材育成の重要性
・居住地域や経済的理由など子ども・若者が置かれている環境にかかわらず，全ての子ども・若者が耐震化等の施された安全な学校施設で安心して必要な力を身に付けていける環境整備の重要性
・人々や地域間，各国間に存在するつながり（絆）や，人と自然の共生の重要性

などが挙げられる。

○　東北各地では，現地の人を中心にしながら，国内・国外からの多くの支援・協力を得つつ，復興に向けた新しい教育の創造の動きが始まっている。このような取組は今後の我が国の教育の在り方に大きな示唆を与えるものであり，こうした東北発の未来型教育モデルづくりを被災地だけでなく我が国全体で発展させていけるよう支援を行うことが求められる。

（４）社会の方向性

（社会システム転換の必要性）

○　以上に述べた様々な危機を放置すれば，人口減少，経済成長力の低下，財政の悪化，雇用不安や格差拡大による社会の不安定化，社会保障への悪影響など負の連鎖が加速し，早晩我が国社会が衰退の一途をたどることは免れない。

○　しかし，一方で，我が国には様々な強みが存在していることも忘れてはならない。「クール・ジャパン」と呼ばれる豊かで多様な文化・芸術や優れた感性，環境・エネルギーや医療・介護分野等の世界をリードする高い科学技術，さらには「ものづくり」の基盤技術など，枚挙にいとまがない。そして，これらの源泉として存在する，勤勉性や協調性，思いやりの心，さらには読み・書き・計算などの基礎的な知識技能の平均レベルの高さ，そして先の大震災でも改めて認識された人の絆といった我々の特質や力は，危機を乗り越えるための糸口ともなり得るものである。

○　上記の危機に対応していくためには，このような強みを伸長しつつ，多様性を基調として様々な人々や自然と共生する成熟社会に適合したモデルを提示・実現することにより，負の連鎖を正の連鎖に転換し，閉塞感を打破していくことが求められている。

（新たな社会モデル　～知識を基盤とした自立，協働，創造モデルとしての生涯学習社会の実現～）

○　地球規模の問題が山積しており，資本主義社会を基調としつつも，物質的豊かさのみを追求する時代の終焉に差し掛かっている現在，諸問題の解決に向けた「協働」や新たな社会的価値を示すイノベーションの視点が求められている。同時に，変化が激しく，多様化が一層進行する中にあっては，個人の幸福の実現に向けた，あるいは，社会全体の持続的成長・発展に向けた今後の方向性を行政が一律に指し示すことは困難と考えられ，それぞれの現場においても様々な方向性を見いだし，実現していくことが必要となっている。

○　このため，今後は，「自助」を基調としつつも，人々が主体的に社会参画し社会全体で支え合う「互助・共助」の在り方が一層重要になり，これらが困難な場合に「公助」が必要となる。すなわち，一人一人の自立した個人が多様な個性・能力を生かし，他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる柔軟な社会を目指していく必要がある。

○　その鍵を握るのは，社会を構成する個人・集団・社会総体としての知識・知恵・意欲の量と質にほかならない。国内的にも国際的にも，知が社会・経済を駆動する知識基盤社会が本格的に到来する中にあっては，各自が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高め，様々な人々と協調・協働しつつ，自己実現と社会貢献を図ることが必要となる。そのためには，人々がそれぞれのニーズに応じた多様な学習をあらゆる機会にあらゆる場所において能動的・自発的に行い，その学習成果を社会に生かしていくことができる生涯学習社会[*2]を構築する必要がある。

○　以上を踏まえ，本計画においては，以下の「自立」「協働」「創造」の三つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を旗印とする。

（自立）一人一人が，多様な個性・能力を伸ばし，充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会

全ての個人の社会的自立の保障に向けて，生涯を通じ，社会における居場所と社会参加の機会を確保するとともに，それぞれの多様な個性・能力に応じて，社会を生き抜くために必要な力を主体的に身に付け，生かしていくことができるようにすることを目指す。

（協働）個人や社会の多様性を尊重し，それぞれの強みを生かして，共に支え合い，高め合い，社会に参画することのできる生涯学習社会

社会全体の絆の確保に向けて，言語，伝統，文化，郷土，歴史，自然や協調性といった我が国の強みなどを尊重しつつも，様々な個性を持つ人々や集団が，多様な価値観・ライフスタイル等を受容しながら相互に学び合い，支え合い，高め合うことのできる環境の構築を目指す。

---

*2 ＜生涯学習社会＞
「国民一人一人が，自己の人格を磨き，豊かな人生を送ることができるよう，その生涯にわたって，あらゆる機会に，あらゆる場所において，学習することができ，その成果を適切に生かすことのできる社会」（教育基本法第３条）をいう。